

令和8年8月千葉豪雨現地調査報告

2026/9/16

岩手大学理工学部 松林由里子

2026年8月13日から14日に発生した令和8年8月千葉豪雨とその後の降雨による被害状況について、現地調査を行いました。

広範囲での氾濫被害が報道された大網白里市では、大網駅前での小中川周辺の氾濫によると見られる、駐車場フェンスの倒伏、小中川からの越水を防ぐために設置されたらしい止水板が見られました。また、小中川支川沿いでは、千葉豪雨と、その後の9月4日の浸水被害が報道された、水田地帯に立地する飲食店やコンビニエンスストア周辺を確認しました。

千葉市内では、駅周辺のアンダーパスの歩道壁面の路面から1m以上の高さに、浸水痕跡と見られる跡を確認しました。千葉県出身者によると、冠水が報道されたSOGOと千葉駅の間の交差点は、今回だけではなく、地元民にとっては大雨で冠水しやすいことが知られている場所だということです。

期間：2026年9月11日～12日

調査者：松林

場所：千葉県千葉市、大網白里市ほか

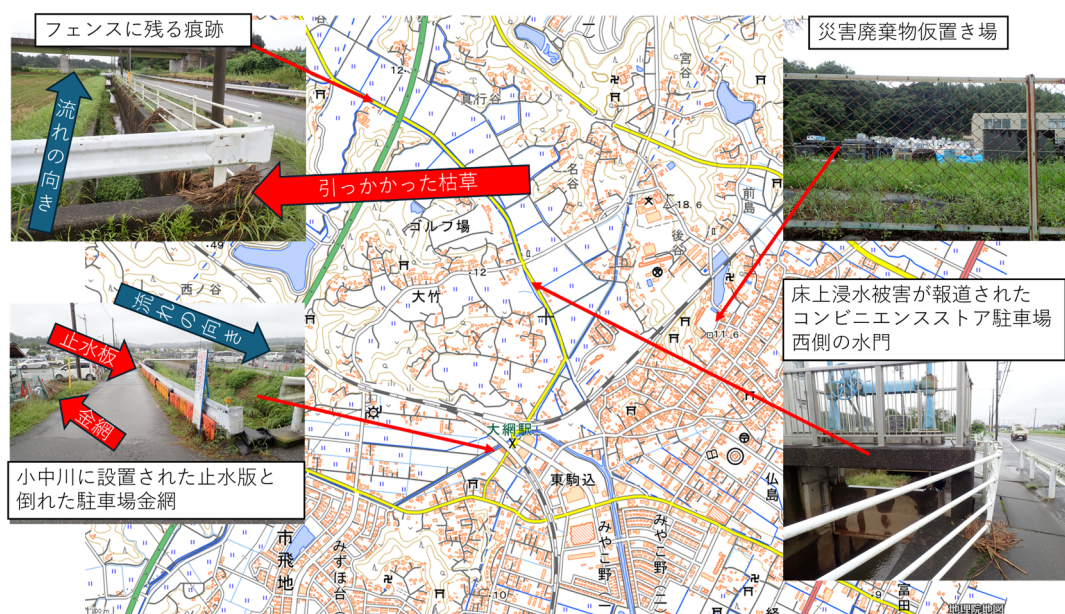


図1 大網駅周辺の被害（国土地理院地図に写真とテキスト、図形を追加）

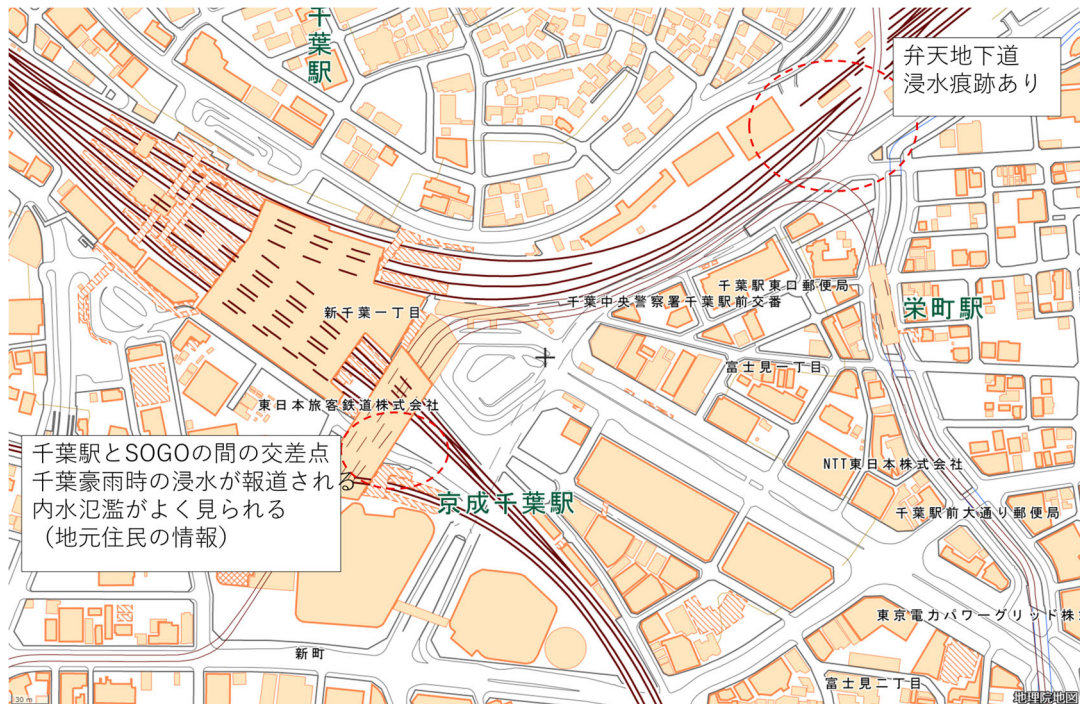


図2 千葉駅に近い弁天地下道（アンダーパス）
（国土地理院地図に図形とテキストを追加）



弁天地下道入り口



弁天地下道歩道壁面看板の浸水痕跡

以上